

令和5年度 第1回 三島市介護予防・生活支援体制整備推進協議会 議事録

1 開催日時

令和5年6月26日(月) 13:30~14:40

2 開催場所

三島市役所 本館3階 第1会議室

3 出席者

(1) 委員

亀田力(座長)、大村皖伸(座長代理)、渡邊幸代、下村奈生、秋津佐代子、鈴木淑子、秋山孝史、伊藤里香、齊藤都子、笹原美鈴、楨かおる(委員代理)、笠原知美、野口啓太郎(第2層コーディネーター)

欠席:木暮俊文

(2) 事務局

<健康推進部>

佐野部長

<健康推進部 地域包括ケア推進課>

石井課長、木村副参事、勝俣副主任保健師、長谷川主査、細谷第1層生活支援コーディネーター

4 会議の公開・非公開

公開

5 傍聴人

1人

6 会議の内容

(1) 健康推進部長挨拶

(2) 座長挨拶

(3) 議題

ア 令和5年度地域支え合い会議について

【事務局説明】

事務局より、地域支え合い会議について説明後、第2層生活支援コーディネーターから、今年度の地域支え合い会議の実施状況と来年度の取組予定について、資料1に基づき説明

【質疑・応答】

(座長)

今年度「高齢者が抱える経済的な課題」をテーマに地域支え合い会議を実施するとのことで、大変良いテーマだと思っている。70歳以上の高齢者が仕事を求めてハローワークに行っても仕事が無く、

求人票で年齢不問となっても、なかなか就職が難しいという内容の記事が静岡新聞に掲載されていた。

(委員)

70歳以上の方で働けない方が多いとのことですが、シルバー人材センターでは、85・86歳の方でも働いている方はいる。

(座長)

高齢者の就労において、シルバー人材センターの役割は非常に重要だと思うので、アピールしてほしい。また、長時間の就労だけでなく、短時間でもできるような仕事を検討してほしい。

(委員)

民生委員の活動をしている中で、引っ越しをしたいが費用の捻出ができないという相談を受けた経験がある。市営住宅も入居待機者が多く、直ぐに入居することは難しい。こういった課題を解決するためにも、空き家等を活用することにより家賃を抑える仕組みができればよい。

(座長)

シルバー人材センターからの依頼を受けて、空き家管理の仕事をしています。三島市にも多くの空き家が存在していることから、空き家の有効活用などの施策の必要性を感じる。

(委員)

老人会の役員として活動し高齢者の方と係っていると、高齢者が二極化しているように感じる。生活に問題が無い方が大多数だが、経済的な課題を抱えている方も少なからずいる。問題の根幹は外から見ただけでは分からないため、身近な人間が支援することも難しく、公的な支援に頼るしかない。しかし、全てを公的な支援で賄えるものではないことから、課題解決に至らないため、どのように関わればよいか分からない。

(座長)

公的な支援ばかりではなく、経済的な課題を抱えている方が少しでも報酬を受け取れるように、就労の場を紹介していくことが必要。

(委員)

民生委員の活動をしている中で、経済的に困っている方から相談を受けたことがある。公的なものを紹介して利用してもらっているが、そういった方たちはそのような情報を得る機会が少ないため、民生委員も含め、情報を得る機会が必要だと感じる。地域での支え合い活動を行ったうえで、ボランティアとしての活動範囲は限られてしまうため、公的な支援を充実させて欲しい。

(委員)

地域包括支援センターには経済的な課題に関する相談が多く寄せられる。生活支援センターや成年後見支援センター、社会福祉協議会に繋いで解決できれば良いが、そればかりではなく、包括はそのような課題に日々向き合っている。家計改善のためにハローワークやシルバー人材センターに相談しても、自身が出来る仕事が無く、目標を失ってしまうことが多い。今回のテーマでどのような課題が挙がるのか、非常に興味がある。

(委員)

経済的に困りの相談は地域包括支援センターに多く寄せられている。特に引っ越しの問題はいつも苦労している。収入がない限り改善できないという悪循環に陥っている。今回の地域支え合い会議で話し合うことにより、何かよい改善策が挙げればよいと思う。

## イ 体操サロンまるっとについて

### 【事務局説明】

事務局より、資料2に基づき今年度の実施状況及びスケジュールについて説明

### 【質疑・応答】

(委員)

先日社会福祉会館で行われた、わいわいボッチャ居場所 with みしまるっと体操に初めて参加した。みしまるっと体操は体を上手に使うことができるが、高齢者の場合、ケガのリスクがあるため、指導者が必要と感じた。体操やボッチャを通して参加者と交流したが、今後はグループワーク等を通して参加者同士が更に交流を深め、活動が広がっていくよい。

(座長)

これらの活動は平日のみの実施か。

(事務局)

病院のリハビリの先生に講師を依頼しており、土日での講師の派遣が難しいということで、現在平日のみの実施となっている。

(委員)

通いの場について、立上げ後に活動を継続維持していくことや、ボランティアをする側を支えることが大変なので、今までの活動のノウハウを活かし、手伝えたらと思う。身近な居場所がたくさんできればよい。

企業とタイアップした活動として、広小路にある平成建設の作業場で、月に1回木工カフェを開催している。男性の方向けの集まれる場所として4月から始めた。認知症に関する知識が無いため、今後は平成建設の社員の方々に認知症サポーターとなってもらいたいと考えている。また、同場所にて世代間交流の場として、2か月に1回のペースで活動を開始しており、地域のネットワークづくりを目指している。

(委員)

コミュニティカフェという名称で、演劇や音楽・落語鑑賞を行っており、参加型の活動ではない。まるっと体操を参加型の活動として取り入れてみたい。土日の講師派遣が難しいとのことだが、土日に体操を行いたい場合は、誰かが講習等を受ける必要があるのか。

(事務局)

体操サポーター(みつばち)養成講座を実施予定。常時活動している体操サポーターは8人ほどおり、そのうち、実際に市内の居場所や独自のグループで体操の講習を教えている人もいる。

本来であれば、リハビリの先生に正しい動きや目的等を学んでいただきたいが、短時間での実施を希望する場合は、市の職員が講習を実施することもできるので、ご相談いただきたい。

## ウ その他

### 【事務局説明】

今までの議題に関してや委員の皆様から議題にあげたいことがあるかについて問いかけた。

### 【質疑・応答、その他意見】

(委員)

今年度の地域支え合い会議について、年3回5圏域にて開催予定。なるべく多くの方からご意見を頂きたいため、周知についてもご協力をお願いしたい。

また、ノルディックウォークでお助けアルク見守り活動について、周知用のチラシを新たに作成したため、関係者の皆様への周知を図るとともに、皆様の活動の中で気になる方がいた際にご紹介いただきたい。

#### (4) 事務連絡